グループホームさくら園 (認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　19　年　10　月　9　日

[評価実施概要]

事業所番号	1890700014
法人名	ケアバンク株式会社
事業所名	グループホームさくら園
所在地	鯖江市糺町第14号6番地 (電話)　0778-51-1711

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成19年10月9日

[情報提供票より]　(　19 年　8 月　1 日　事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ ○平成　18　年　9　月　20　日			
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人	
職員数	18　人	常勤　8 人、　非常勤　10 人、　常勤換算　人		

(2)建物概要

建物構造	鉄骨2階建て　造り
	2　階建ての　1　～　2　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,500　円		その他の経費(月額)	個人消耗品実費 円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合 償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	100　円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要　(　8　月　1　日　現在)

利用者数	16　名	男性	2　名	女性	14　名
要介護1	5		要介護2	3	
要介護3	6		要介護4	2	
要介護5			要支援2		
年齢	平均　83,6　歳	最低	68　歳	最高	101　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	馬場医院、いなみ歯科医院

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

昨年9月に開設された当ホームは、鯖江市郊外の日野川沿いの周りを田んぼに囲まれた緑豊かな環境の中にある。県内では珍しくグループホームに児童クラブが併設された複合施設で、子ども達の声が行き交う施設でもある。ホーム近くにある畑では、野菜栽培を行なっており、農作業が好きな入居者が生き生きと季節の野菜を育てている。また、収穫した野菜は食事の材料に使われ、入居者は料理の手伝い等の活動も楽しそうに行なっており、日々の食事の楽しみが持てるようにとの事業所の心配りが伝わってくる。居室は入居者それぞれの意向を反映して、入り口の表札は木で作られたものや、押し花で飾られたものがあったり、家具も自宅で使っていた馴染みのものが持ち込まれ、個人の好みを重視した自由な配置になっている。事業所の前には芝生が生えており、緑溢れた風景の中でお茶の時間を楽しむ日もある。近くには量販店があり、日用品の買物や散歩にも出かけている。

[重点項目への取組状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審となる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に当たって、管理者、職員はそれぞれの項目で具体的に意見交換をしながら評価に取り組み、入居者が一緒に暮らす家として、その人らしく生きることを支援する意義を確認している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容およびそれを活かした取り組み、(関連項目4,5,6)
	運営推進会議は2か月に1回開催され、メンバーは、市の地域包括支援センター、高齢者福祉の見識者、地域住民、入居者の家族、入居者本人等で構成されている。運営推進会議での報告と助言をうけて、転倒予防や感染予防のマニュアルづくりにつながっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の意見、苦情、不安等は、毎月家族に送付される「さくらたより」に記載できるようになっている。今後は、家族との連携を深めるためにも、個別の面談会を設けたり、家族会の開催を通じた意見の吸い上げなどの取り組みにも期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設して間もないため地域での認知度がまだ低く、地域との交流も近くの神社の祭り等に参加している程度である。もう少しホームの方から働きかけて、公民館等の行事にも参加したり、運営推進会議のメンバーを通じた地域への情報発信を進めることも期待したい。また、児童クラブが併設されている特色を生かし、地域の人が気軽に訪れることが出来る施設として交流の企画等ももたれることが望まれる。

2．評　価　結　果　（詳細）

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームのパンフレットやホームページには、「運営の方針」や「サービス提供に関する基本的な考え」、「認知症ケアに対する姿勢」等の記載が見られるが、明確に理念という形での整理はされていない。	○	地域密着型サービスとしての位置づけを踏まえ、「家庭的な環境と地域との交流」を柱に、簡潔な表現で理念としてまとめられることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、入居者一人ひとりの個性を大事に、相手の立場に立って、のんびりとその人の生活を支援することの意義を共有している。その他、社員の心構えとして自己啓発の12の指針がある。	○	明文化された理念をホーム内に掲示するなど、職員や訪れる方にも理解を深めてもらえるような対応が望まれる。
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の神社の行事や祭りに参加し、地域住民との交流を図っている。	○	ホームが人家から離れており、日常的な交流の機会が少ないため、運営推進会議や公民館、老人会の行事等の機会を活用し、ホームの認知と理解を進め、地域の方がホームに気軽に訪れてくれるような仕掛けづくりも望みたい。
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たって、管理者、職員はそれぞれの項目で具体的に意見交換をしながら評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、転倒事故や施設の経営等の報告がなされ、転倒予防マニュアルの作成等につなげている。	○	外部評価で指摘された課題点も運営推進会議で共有し、改善に取り組むとともに、委員を通じた地域への働きかけ、情報発信を進めることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席してもらい、相談等に対して助言をもらっている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回ホームからの便りに入居者個別の園での様子、生活ぶり、健康面での報告を書き足して家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月送る便りに家族の意見や要望を書き入れる欄を設けており、意見等があった場合は、職員会議で報告するとともに、介護計画に反映している。	○	家族との連携を深めるためにも、個別の面談会を設けたり、家族会の開催を通じた意見の吸い上げなどの取り組みも今後期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して間もないため、入居者と職員のなじみの関係が継続するよう取り組んでいる。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験のない職員への内部研修のほか、外部の認知症研修等に順番に参加している。また、研修後には参加者から報告を受けている。	○	職員会議等を活用し、内部研修の機会に充てるとともに、職員の技術の習得等を図られることを期待する。外部研修については、積極的に職員に周知し、自発的な参加を促すとともに、それに伴う人員配置の工夫や柔軟な勤務調整を望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に加入している。管理者は、今年初めて新任者研修を受ける予定である。	○	連絡協議会の研修等に積極的に参加し、グループホームの課題を共有したり、交流・情報交換を通じて運営やサービスの質の向上に活かすことを期待したい。
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人と家族とで一緒に見学に来てもらったり、入居後しばらくは家族に面会に来てもらえるよう依頼している。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を支援するとき、その表情から喜びを感じている。また、野菜栽培等では、入居者から教えられ学んでいる。職員は方言などの言葉等皆に受け入れられるよう対応している。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集や本人との対話の中で希望や意向の把握に努めている。言葉で表わせない方の場合には、本人の表情等から意向を読み取るようにしている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の本人との面談、家族の意向、ケアマネジャーからの情報、入居後の様子を元にアセスメントとカンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	業務日誌に個々の入居者の状況が詳細に記されており、カンファレンスによる介護計画の見直しを月1回行っている。課題チェック表等も随時見直され、きめ細かくモニタリングされている。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	児童クラブが併設されており、子ども達の声に入居者も微笑んでいる。	○	児童クラブが併設されている特色を生かし、日常的に子ども達と関われる取り組みを求めたい。また、地域における認知症ケアの拠点として、短期入所の受け入れについても検討されることを期待したい。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診時、家族が同行できない場合、職員が同行している。突発的な発熱時等にも、家族に連絡して家族が行けない場合は、職員が同行している。薬の受け取りもできない場合は支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族の意向も聞くが、開設して間もないこともあり、今のところ対象となる入居者はいない。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	下着等の着替えは、トイレか居室に入り、ドアを閉めて行なっている。1階部分の窓はすべてすりガラスで、プライバシーに配慮している。職員会議録、業務日誌、運営推進会議録、感染対策、転倒予防マニュアル、ヒヤリ・ハットシート、職員勤務表、緊急連絡網等も適切に管理されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者には、畑作業や調理作業等日々の生活の中で、得意なこと、できることに取り組んでもらえるよう支援を行なっている。入居者の希望に添って買物や美容室に出かけるなど個々に対応している。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者がそれぞれに出来る範囲で、手作りの餃子や米とぎ、大根の皮むき、食事の片付けなどを職員と一緒に行なっている。ホームの畑で出来た野菜等も食材になり、自分たちが育てた野菜は味がよいと入居者の満足そうな様子もみられた。	○	朝、夕の食事時間帯に職員が1人勤務となり、職員がゆとりをもって入居者の見守りや関わりができないことも想定されるため、人員配置や勤務体制の工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴できるようになっている。個人の希望で今までの習慣に添って入浴支援をしている。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、調理作業の手伝いなどできることをお願いしている。また、畑作業や生け花等趣味や特技も活かされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの量販店まで日用品の買物に出かけたり、ホームの周りの緑豊かな田んぼを眺めての散歩等の支援をしている。	○	2階ユニットの入居者にも、イベント的な外出ばかりでなく、いつでも外で過ごせる支援を期待したい。
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方がいるため、日中も鍵をかけている。入居者が外に出たい様子を察知したら、職員が付いて外出している。	○	2階から1階へもアコーディオンカーテンで仕切られ、錠がかけられているので、入居者の閉塞感を軽減する取り組みの工夫を求めたい。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を実施し、避難経路や消火器の使い方を確認しているが、2階の入居者には車いすの方もおり、施錠されている状況からも避難誘導に困難が見られる。	○	鍵をかけない取り組みとあわせて、職員体制が手薄な夜間や早朝を想定した訓練や、近隣や自警団の協力を得られる体制づくりも今後望まれる。
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算された食事が提供されており、水分摂取量も把握されている。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とリビングが一体となっており、食卓のほかにソファーも置かれているが、一人が横になってしまうと、他の入居者がくつろげない状況である。共用の座敷も1階のみで、共同空間の中でのゆっくり出来るスペースが少ない。	○	必然的に居室で過ごす時間が長くなることが想定されるため、廊下の空きスペースにソファを置いたり、1・2階の行き来や屋外への出入りをオープンにして、入居者同士の安らぎが得られる居場所づくりが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者それぞれの意向を反映して、入り口の表札も木で作られたものや、押し花で飾られたものがあったり、家具も自宅で使っていた馴染みのものが持ち込まれ、個人の好みを重視した自由な配置になっている。	○	居室も入居時、本人と家族が選んで決めており、家具の配置などそれぞれの入居者の個性が感じられる居室もあるが、全体的に持ち込み物が少なく感じられるため、家族の協力も得て、居心地のよい居室づくりに取り組まれることを期待したい。

※ ■は、重点項目。

グループホームさくら園（1階・2階共通）

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	温かみのある過程的なグループホームを目指している。		今後も継続していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議で当ホームの理念、方針を職員が再認識し、日々の取り組みについて話し合い、実践していくように努めている。	○	今後も理念に向けた実践に努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	見学者を通して、パンフレット、ホームページを活用している。		取り組みを図っていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のお店に買い物に行き、顔なじみの関係作りに努めている。	○	当ホームは田んぼの中にぽつんと立っており、隣近所が離れているので、孤立しないよう散歩中などにご近所の人と気軽に挨拶や声を掛け合えるような関係作りに努めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、催し物に参加。地元神社のどんど焼き、夏祭りに参加し、地元の人々との交流を図っている。	○	今後も行事はもちろん、清掃活動など地域の活動に地域の人と一緒に参加していきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行っていない。		地区の公民館で介護教室などがあれば、認知症に関することは何かアドバイスができたらと思っている。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回がはじめての外部評価。項目に挙げられることがグループホームに求められていることの理解に努める。	○	評価を活かして具体的な改善策に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	転倒や感染予防のマニュアルを作成し、職員の意識向上に努めている。センター方式の利用、ヒヤリ・ハットの取り入れの意見があったが、まだ実施していない。	○	センター方式を少しずつ利用し、個々の計画書の見直しをしていきたい。また、ヒヤリハットを取り入れ、事故の再発防止に努めたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設して1年足らずで、わからないことなどアドバイスを受けている。	○	今後も市町担当者とは関係を密に相談、助言を頂きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業や制度についての理解や認識はまだまだ不十分な状況。それらについて学ぶ機会も今のところ設けていない。	○	成年後見制度を手続きされた利用者が居られることもあり、研修会には積極的に参加していきたい。また、市の包括支援センターに勉強会の依頼を働きかけたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員に報告、意識向上に努めている。	○	今後も継続していきたい。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解が得られるよう十分に説明。わからないことを尋ねられたときには、納得頂けるまで説明している。特に解約の時は家族の不安が大きいため、慎重に丁寧に、理解していただけるよう気をつけている。	○	前述の内容を継続して、不安のないよう対応していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に決めている日や場所はないが、日々の生活の中で得られた苦情や不満は管理者に報告し、速やかな対応に心がけている。	○	今後も継続し、さらに相談員派遣を取り入れていく予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回園からの便り（さくらだより）を個別に送り、園での様子、生活ぶり、健康面などをお知らせしている。	○	今後も継続して発行。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口（園内、市長寿福祉課）を、契約の際に説明。またお便りを送るとき、家族からの意見を頂く用紙を同封している。頂いた意見は職員会議で伝え、支援に関しては個人の計画書に反映させている。	○	今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に運営者との面接を行い、改善案などの意見を聞く機会を設けている。	○	新しい職員は行っていないので、全職員を対象に行っていきたい。また、利用者の意見も個別に聞く機会を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝早い通院の介助など、時間帯を調整して、要望に応じている。	○	出来る限り要望には対応できるよう調整していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者から尋ねられた時、話している。	○	生活も徐々に長くなってきているので、出来る限り利用者の方へのダメージを防ぐよう配慮していきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	情報、研修会の案内等により、基礎的なもの、管理者用などの研修を受ける機会を作っている。経験のない職員もいたので、1階2階を一定期間メンバーチェンジし、園内での研修の場を設けた。	○	認知症実践研修は、職員を順次参加させていきたい。出来るだけ幅広く研修には参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習の受け入れは行っているが、勉強会までには至っていない。	○	相互の活動、オプションの取り組み等、意見交換をもちサービスの質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常会話などを通して、健康面に配慮している。	○	職員の親睦を図る機会を作る。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力レベルが低下しないよう積極的に研修会への参加。	○	内外の学習会、研修会への参加を図っていく。
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前、後に本人と話をする機械を持ち、思いを十分に聴き受け止める姿勢に心がけている。本人の思い、不安に思っていることなどを他職員にも伝え、内容によっては計画書に挙げていく。	○	利用者の方の話には十分耳を傾け、受け止める姿勢で業務に臨みたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、必ず家族との面談を持ち、家族の思いや不安なことを十分に聴き、受け止めて行く姿勢に心がけている。	○	今後も継続していく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の対象でなく、受け入れ困難を伝えたケースはあったが、必要としている支援を見極めたことはこれまではなかった。	○	今後状態に応じて、必要としている支援を見極めて対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に出来る限り本人と一緒に見学して頂き、園の生活ぶりを直接見ていただいている。また入居後しばらくはこまめに顔を見に来て欲しいことなど家族に依頼している。どういう説明で入居されたのかも予め尋ねている。	○	前述の内容を継続。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常会話、レクリェーション、家事など日々の生活を通して利用者を理解し尊重している。	○	常々念頭に置き、業務を遂行していきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってより良い暮らしとなるよう、家族の方には色々と相談させていただく姿勢で努めている。	○	家族と一緒に参加できる行事の検討。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会を呼びかけるなど、家族との関係が維持できるよう努めている。		より良い関係が築いていけるよう努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を快く受け入れ、面会の継続を声かけしている。入居前から利用の地域の食事会の参加を見守りしている。	○	今後も継続していく。馴染みの場所がある利用者には、出かける支援もしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	掃除や調理、その他色々な活動への参加を促して、利用者同士が関わり合い、孤立しないように努めている。	○	今後も継続し、支え合える共同生活を支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の状況を確認している。	○	継続な関わりを必要とする場合には、関係を断ち切らないよう努めていきたい。
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談や、入居後それぞれの思いや意向を聞き出す事に努めている。	○	前述の内容を継続。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やケアマネージャー、他サービス事業所などからの情報収集に努めている。	○	前述の内容を継続。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の面談や関係者からの情報、入居後日々の生活を見たりアセスメントなどから総合的に把握するよう努めている。	○	前述の内容を継続。また状態の変化に注意して、一日の過ごし方や有する力を把握していきたい。
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書の見直し時に、家族に要望を尋ね反映するようにしている。また、定期的にカンファレンスを行い、見直しを行っている。	○	前述の内容を継続して、利用者がより良く暮らせるよう図りたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、新たに計画書を作成している。支援内容の実践を毎日チェック、月1回と状況変化が見られたとき、カンファレンスを行い見直しを行っている。	○	前述の内容を継続。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書をもとに個別記録を記入している。	○	前述の内容を継続。また気付きや新たな情報の共有について検討していきたい。
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、理美容院の利用、日用品の補充など、個々の要望に出来る限りの対応を行っている。	○	今後も家族の状況、その時々の要望に応じて、出来る限り対応していきたい。
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今のところなし。		必要性に応じて検討していく。利用者が一人で外へ出て行ってしまった時協力を得られるよう交番に園の理解を求めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のサロンに参加される利用者が1名居られるが、他には今のところ行っていない。		今後、他のサービスの利用を希望されることがあった時には対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。		権利擁護など、地域包括支援センターへの相談を検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望するかかりつけ医を大切にし、通院などの時には園での情報を伝えたりしている。		かかりつけ医との関係作りに努めていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知の状況をみて家族に専門医の受診を相談している。その際は、職員が同行し専門医との繋がりが築けるよう努めている。その後の通院時も職員が同行し、相談などしている。	○	受診、通院を通して専門医との関係を保っていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	園で通院する時は、地域の看護職に」相談することが出来ている。		検討していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院利用者をお見舞いに訪れた際、状況把握や今後の目処などについての話を持ち、連携に努めている。	○	行っていない場合もあるので今後は出来るだけ早期に行っていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ該当する利用者はいない。		今後は十分検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在そのような状態の利用者がいない。		今後は、状態の変化に備えて検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	短期間での退居ということもあり、特に行ってこなかった。	○	園での生活状況などあらゆる情報を伝え、少しでもその利用者のことを理解してもらい、本人にとって住み替えによるダメージを少しでもなくしていきたい。
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング、職員会議等での徹底。		接遇に関する研修の検討。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	1人1人の状態をみて、対応していくよう心がけている。		自己決定について職員間で話し合いを持ち、検討していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいかを尋ねることはあっても、日々の生活は職員の誘導で流れている。		今後検討していく。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の美容師に来てもらう、希望の理容店に来てもらう、希望の美容院に連れて行くなど、支援している。		前述の内容を継続、今後も出来る限り利用者、家族の意向を聞いていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備などできる作業を、好みや力によって、包丁を使う作業、混ぜる作業、けずる作業など振り分けをして行っている。	○	出来るだけ皆が食事作りに参加でき、皆で作り上げた喜びを味わえるよう図っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上、支障のないものは特に禁じていない。好みのおやつや飲み物などは取り入れるようにしている。現在、お酒やたばこを楽しむ利用者はいない。		今後、お酒やたばこを楽しむ利用者がいれば、楽しめる工夫を行っていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ使用でも時間をみてトイレの声かけ、誘導で失敗を減らし、可能な限りトイレでの排泄を取り組んでいる。また、状況をみながら可能な間だけでも下着で過ごせるよう取り組んでいる。	○	前述の内容を継続し、1人ひとりの力を大事にしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴者の予定はあげてはいるが、気が進まないようなら翌日に行っている。		希望やタイミングに関しては、今後検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡、鍵をかけて寝る、部屋の明かりは点けたまま寝るなど、安心して休まれるよう支援している。	○	今後も一人ひとりの生活習慣を大事にしていきたい。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴や趣味、好きなこと、習慣としていたことなど、生活歴の情報を収集し、また利用者や家族の要望を取り入れ、支援に努めている。	○	前述の内容を継続、日々の生活の中で得た新たな情報も取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルがないよう十分注意をしながら支援している。個人の買い物は自分で支払が出来るよう支援している。お金の管理が出来ない利用者が多く、所持していないことが多い。		今後検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園外の草むしり、畑作業、買い物など希望に副えるよう努めている。		1人ひとりの希望を聞くまでには至っていないので、状況に応じて今後検討していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	長年利用していた洋服屋に行きたい、おやつを買いに行きたいなどの要望があり、出かけている。	○	思いを聞き出し、個別に対応していきたい。場所によっては家族と一緒に出かけられる機会として相談していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への電話の要望があり対応している。頻回な利用者は家族と相談の上、時間を決めて掛けてもらっている。	○	要望に応じて支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者を快く受け入れ、居室や食堂など自由に面会していただいている。	○	前述の内容を継続。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やミーティングで身体拘束禁止を伝えているが、具体的にどういう行為か理解は不十分と思われる。	○	具体的な行為をあげて、職員が理解できるよう話し合いを持つ。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者が多いため、玄関は施錠。トイレや居室の窓も、家族からの要望があった時や安全と思われる時には一定以上開かないようにしている。	○	やむを得ず施錠しているが、利用者にとって弊害になっていることを職員は十分理解していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に居られる、ベンチに座っておられるなど所在には注意し、気になるような様子の時にはそのことを他の職員にも伝え、皆で注意するようにしている。	○	前述の内容を継続。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在は注意の必要な物品を持ち込んでいない。以前顔剃りをしたカミソリを持っていた利用者が居られたが、1本だけ持ってもらうようにし、後は預かったことがある。	○	利用者の能力に応じて、どこへ置いたら安全か一緒に話をして決めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒に関しては、一人ひとりの状態をみて防止策を全職員で話し合い、防止に取り組んでいる。	○	窒息、誤飲、行方不明についても対応策、防止策を話し合っていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行っていない。	○	応急手当や初期対応のマニュアルを作成し、勉強会を設け認識を高めていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	火災発生時は地域の自警団に緊急連絡が入り、速やかに協力が得られる体制を整える。また、地震や水害等の災害時の避難場所を確認し、職員が理解しておけるよう努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	日々の状況などを面会の時などに伝えて、今後起こり得るリスクについて相談、理解を求めている。急を要する時には、電話で速やかに伝えるようにしている。	○	計画書の内容についてはどのような状況か、数人の家族に伝えているだけなので、どの利用者も行っていき現状と今後予想される事などの理解を求めていきたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、その他薬の管理、通院、日々の観察に十分注意を払っている。異変など気付いたことは申し送りを十分に行い、漏れる事なく情報を共有して観察するようにしている。	○	前述の内容を継続。様子を見ていることでも家族には伝えるようにしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量に関しては、朝、昼、夕の箱を用意し、それぞれ数を書き込みセットしている。薬の説明書を薬の中に入れてはいるが、特に目的や副作用などについて全職員が確認していない。	○	薬の目的や副作用などの内容についての情報収集を徹底し、薬に関する認識を高めていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	極力脂肪の取り過ぎを減少し、根菜を多めに塩分控えめに、こんにゃくの取り入れに気をつけている。ラジオ体操や歩行訓練、足上げ運動など適度な運動の取り入れを行っている。	○	前述の内容を継続。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯で口臭のある方は、就寝前にポリデントで義歯の洗浄を行っている。ご自分の歯の利用者1名は、家族の要望もあり、おやつ、食事の後は毎回歯磨きを促している。義歯のない利用者は毎食後うがいを促し口腔の清潔に取り組んでいる。	○	前述の内容を継続。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、動物性たんぱく質は1日60gを目安にしている。緑黄色野菜を多めに接種できるよう献立を立てている。午前、午後、入浴後の水分補給、食事には汁物の取り入れに注意している。利用者それぞれの食べられる量で盛り付けをしている。	○	前述の内容を継続。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食材で土の付いた物は台所に持ち込まない。便座やドアノブ、蛇口、スリッパなど毎日1回はアルコール消毒をしている。外から帰った時やおやつ、食事前の手洗い、消毒を行っている。	○	前述の内容を継続。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	高温殺菌、定期に冷蔵庫内のハイター洗浄の実施。こまめに買い物をして冷蔵庫内の空間を多くする、食品の先出しに心がけている。	○	前述の内容を継続。
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横の花壇に花を植え、誰もが訪ね易いよう、家庭的な明るい玄関作りを工夫している。		今後検討していく。
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の窓は全てすりガラスにして、プライベートな生活が保たれるようにしている。食堂にはブラインドを設置して強い光が苦手な利用者の目を守っている。	○	前述の内容を継続。
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内のソファー、座敷（1階のみ）、玄関にベンチを置き、利用者が思い思いに過ごせるようにしている。	○	前述の内容を継続。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ自宅で使っていた馴染みのある家具などを持ってきてもらっている。また、ベッドやタンスなどの配置は、自宅で過ごされていたようにそれぞれ自由にしてもらっている。	○	前述の内容の継続。馴染みのあるものや好んでいた置物、装飾品などの持ち込みも声かけしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂、廊下、居室など窓を開けて換気。トイレは常時換気扇。利用者の体調に合わせて冷暖房を利用。風向きにも注意して直接風が当たらないようにしている。	○	冷房は26～27度とし、外気温との差が大きくならないようにしていく。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置して、可能な限り安全に自立した生活が送れるようにしている。また1階のみではあるが、居室に和室を設け一人ひとりの身体機能に応じた生活が送れるようにしている。	○	前述の内容を継続。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族に確認をとったうえで、居室に名前を表示。トイレや浴室の標示。能力に応じて居室タンスに種別ごとに表示の工夫。	○	前述の内容を継続。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前の広場で、日向ぼっこや気分を変えてお茶を楽しんだり、夕涼みなどに活用している。ホームの周りを散歩道として活用。	○	前述の内容を継続。玄関前の広場にベンチを置き、もっと気軽に戸外を活用できるようにしていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

事業所近くにある畑（約1反）にて色々な野菜を作り、園内の食材としている。ここでは、利用者の活動能力に合わせて畑の草むしり、野菜栽培、野菜の調達等の活動を行っている。また、取れたてで新鮮な野菜を使った料理メニューに合わせ、料理の手伝い等の活動も行っている。お米も地元コシヒカリを精米してすぐに使うなど、利用者の皆さんが日々の食事を楽しみにできるよう力を入れて取り組んでいる。さくら園に併設で、学童保育、学習塾及びピアノ教室を行っている。今後さらに交流機会を多くして、高齢者の楽しみや生きがいの感じられる事のひとつになるよう力を入れている。